

山口大学

学生特別支援室だより

News Letter



コロナ禍の障害学生修学支援

本年度(令和2年度)は、感染症拡大防止策の一環として、授業スケジュールが変更になり、授業実施方法にオンラインが加わるなど授業形態が多様化しました。このことは障害等のある学生への修学支援にも影響しています。今回のNewsLetterでは、コロナ禍の支援状況の概要をご報告するとともに、新たな支援の工夫についてご紹介します。

相談対応手段を使い分けています！

本年度は、感染症対策として入構制限がかかった時期があったり、授業がオンライン化する、感染症に関する不安があるなどにより、学生特別支援室(SSR)での面談機会が限られる傾向にありました。学生特別支援室では、対面、オンライン、メール、電話を使い分けて、効果的に相談対応できるよう努めています。



来室

- 事前予約をお願いします。
- 体調不良・緊急事態宣言対象地域との往来があった場合は申し出てください。
- 来室時は、感染症対策にご協力ください。



メール

- 相談、来室・オンラインの予約など、気軽にメールください。
- 個人情報の記載は最小限をお願いします。



オンライン

- 感染症への不安がある、緊急事態宣言対象地域に滞在中などの場合には、オンラインでの面談をお勧めします。
- 希望する場合は、学生特別支援室までご一報ください。



電話

- お急ぎの場合、お困りの場合は、お電話ください。
- 必要に応じて、別途面談の時間を取ります。

授業中支援の方法を工夫しています！

コロナ禍では、感染症対策を徹底したうえで対面授業が実施されたり、遠隔授業(リアルタイム配信・オンデマンド・修学支援システム等による資料配布・課題提出)が実施されたりしてきました。障害のある学生への授業中支援は、授業形式と連動して実施する必要があるため、支援方法を工夫しています。

<対面授業>

- 身体接触を伴う支援
⇒ 要領を確認しなるべく教職員が担当...
- 換気による気温の変化が体調に影響
⇒ 座席の工夫...



<遠隔授業>

- 遠隔での支援環境の整備
⇒ 遠隔ノートテイク
⇒ 音声認識技術の導入...
- 教材支援の充実
⇒ Moodleを活用...



コロナ禍での支援：遠隔化と技術の導入

本授業の遠隔化と連動して、支援も遠隔化する必要があります。また、対面授業では感染症対策を徹底しながら配慮を実施する必要があります。

コロナ禍での、障害等のある学生への支援方法として、3つの例を挙げます。

遠隔でのノートテイク(要約筆記)

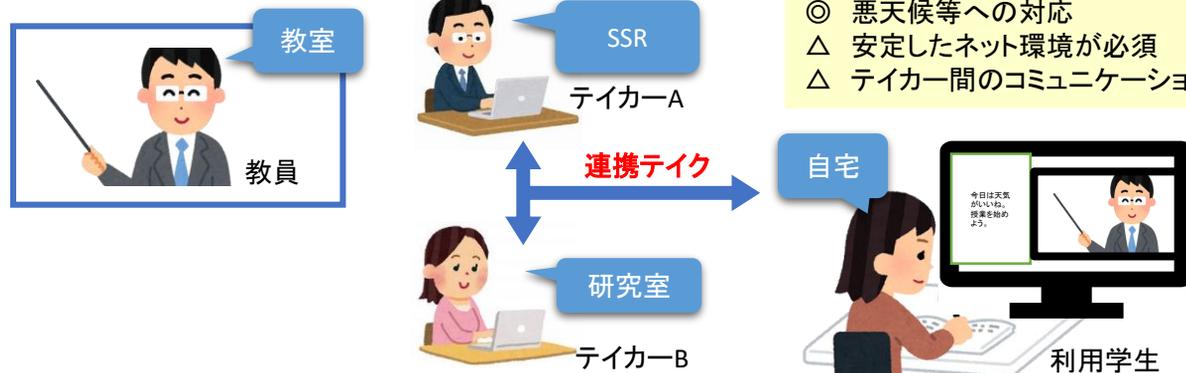
ノートテイク(要約筆記)とは、情報保障の方法の一つで、音声情報をサポーター(ノートテイク)が手書きやパソコン入力により要約して通訳する支援技術です。従来の対面授業では、ノートテイクを講義室に派遣して実施してきました。

コロナ禍では、授業がオンラインで実施されたり、対面授業であったとしても支援者を派遣することが難しい場合が多くなりました。そこで、遠隔でのノートテイクという方法が有効になります。

Iptalk
Webconnect

パソコン連携テイクのためのフリーソフトIP talkに、Webconnect機能が追加され、遠隔での連携テイクが可能になりました。

例) 授業をオンライン配信



- ◎ 遠隔からリアルタイムで実施
- ◎ 教室定員の制限
- ◎ 悪天候等への対応
- △ 安定したネット環境が必須
- △ テイカー間のコミュニケーション...

Moodleを活用した授業教材支援

支援のために授業教材を加工する必要が生じることがあります。例えば、点訳やテキストデータ化、動画の文字起こし作業等です。

この作業も従来対面で、学生特別支援室の学生スタッフ等の協力を得ながら進めることを想定していましたが、コロナ禍での対応を考慮してMoodleを活用する方法を採用しています。

例) 教材の文字起こし作業では...

Moodle上に動画をアップ

担当を割り振り

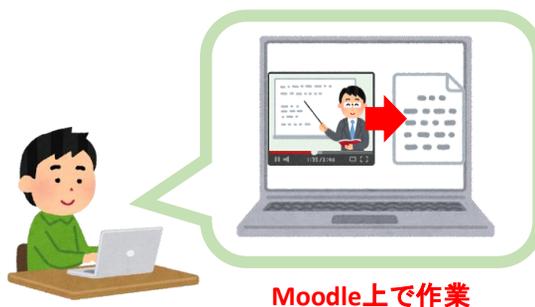
動画再生しながら担当者が作業実施

進捗をニュースフォーラムに投稿

統合版を作成し手直し

完成版を利用学生へ共有

- ◎ 学外からのアクセス可能
- ◎ 進捗管理のしやすさ
- ◎ スタッフ間の連携が容易
- △ 作業時間が必要
- △ 作業要領の統一...



音声認識技術の活用

授業情報の保障のために、サポーターに頼れない場合、ノートテイク等が現実的でない場合は、支援技術や支援機器を導入する方法があります。音声認識技術もその一つです。

学生特別支援室では、3つの音声認識技術を活用しています。それぞれに特徴があるため、環境によって使い分けています。

富士通 LiveTalk

- 富士通の音声認識システム
- 音声認識エンジンはAmivoice
- 有料ライセンス



MS Office365 ディクテーション

- マイクロソフトOffice365「ディクテーション」機能で音声認識が可能
- 音声認識のためにはネット接続が必要



Iptalk Google 音声認識

- パソコン連携テイクのためのフリーソフトIP talkに、Google音声認識機能を組み込んで活用可能
- 音声認識のためにはネット接続が必要



例) 対面授業(PCで集音)



先生の声を、音声認識機能のあるパソコンのマイクで拾う

- ◎ 人的支援に頼らない
- ◎ 話者が多数でも対応しやすい
- △ 環境によって認識率に幅がある
- △ 誤認識が多いと情報取得が困難
⇒ 資料配布等で補填が必要

例) 対面授業(マイクで集音)



補聴システム(マイク)で離れた音声をインプットして認識

例) オンデマンド教材



システムによっては、スピーカーからの音声認識が可能に！

再生した動画の音声を認識
音声がクリアであれば音量調整で認識率アップ！

様々な環境と色々な支援ニーズに応えるためには、多様な支援方法を効果的に選択できるように準備することが大切です。学生特別支援室では、今後も支援環境整備の一環として支援方法の開発・支援者の育成に励みます。

<協力>

令和2年度SSR学生スタッフ: 福島(人文4年)、田村(人文2年)、吉田(経済2年)、川相(農2年)、野上(国際総合2年)、森岡(農2年)、白濱(経済3年)、源川(国際総合3年)、石根(経済2年)、上間(経済1年)、大坪(理1年)、児玉(国際総合1年)

令和2年度 SSRイベント開催報告

学生特別支援室では、毎年関連イベントを開催しています。本年度は、学内教職員を対象に、オンラインにて以下のイベントを開催しました。

令和2年度SSRセミナー

- 日時：2020年9月18日(金) 13:00～14:00 オンライン開催
- 対象：学内教職員
- 内容：開会挨拶（SSR室長 須藤 邦彦）
コロナ禍の障害学生修学支援(SSR副室長 岡田菜穂子)
質疑応答



セミナーでは、新型コロナウイルス感染予防対策がもたらした障害学生修学支援への影響や、オンライン授業での情報保障上の注意事項などについて本学の状況を中心に話題提供しました。

障害等のある就職セミナー

- 日時：2020年 12月18日(金) 12:50～14:20 オンライン開催
- 対象：山口大学の学生・保護者、教職員
- 内容：
開会挨拶（学生支援センター長/創成科学研究科教授 高橋肇）
コロナ禍の就職活動の傾向(就職支援室教授 平尾元彦)
コロナ禍の障害者就労支援(セルフ ジョブ・アソシエイト 辰本博和)
質疑応答
閉会挨拶（学生特別支援室長/教育学部准教授 須藤邦彦）



「就職支援室」と「学生特別支援室(SSR)」では、障害等のある学生の進路選択や就職活動の参考になればと、障害者雇用や就労移行支援に関する情報を提供する機会として「障害などのある学生のための就職セミナー」を開催しています。

本年度は、「コロナ禍の就職活動」をテーマに、就職支援室の平尾先生と、宇部市で就労移行支援事業・定着支援事業を手掛ける「セルフ ジョブ・アソシエイト」から辰本氏を講師としてお招きしました。

障害等のある就職支援に関する勉強会

- 日時：2021年 3月10日(水) 15:25～17:05 オンライン開催
- 対象：山口大学の教職員
- 内容：開会挨拶・趣旨説明(就職支援室教授 平尾元彦)
障害者就労支援について(株式会社ジェイ・ブロード クローバー事業部 宇津 徹也)
山口大学の障害等のある学生の修学・就業支援から
(就職支援室教授 平尾元彦、学生特別支援室 岡田菜穂子)
閉会挨拶(学生特別支援室長/教育学部准教授 須藤邦彦)

障害者の就職関連情報の発信や関連セミナーの開催等の事業を展開している「株式会社ジェイ・ブロード クローバー事業部」から講師をお招きし、全国展開するクローバー事業部の取組、大手企業の障害者雇用の動向、障害者雇用と障害者手帳等についてご講演いただきました。また、本学の修学・就業支援に関する取組状況を共有し、参加者からの質問に講師から助言をいただきました。

山口大学 学生特別支援室(SSR)

メインオフィス：共通教育本館1階

TEL:083-933-5256

E-mail: shien@yamaguchi-u.ac.jp

